



ジェントルハート通信

No.56
2017年秋号

発行:NPO法人ジェントルハートプロジェクト 発行日:2017年9月10日
URL:http://npo-ghp.or.jp Tel. +Fax. : 045-845-3620(小森)

定価:100円(会員無料)

「法律は機能しているのか？」

理事 小森美登里

「第三者調査委員会に思う事」

いじめ防止対策推進法が施行されて以降、全国の様々な地域で第三者調査委員会が立ち上げられています。なぜそれら委員会が頻繁に立ち上がるのだろうか？ また、その委員会は正しく機能しているのだろうか？この二点について、考えてみたいと思います。

まず、なぜ被害者や遺族が第三者調査委員会を望むのかというと、それは学校が持っている情報について、学校や教育委員会側が情報の開示と共有に対しての権限を一方的に握ってしまっており、都合の悪いものに関しては、おもてに出さずに済んでしまうからです。

私自身も娘の自殺直後、学校の持っている情報の開示を当然求めました。しかしそれらは全て拒否され、その後仕方無く弁護士会へ人権救済の申し立てをしたという経験があります。隠蔽や、学校とのあまりに大きな認識の違い等から、学校に対する不信感をつのらせていく中、「学校が教えてくれないのなら、第三者に公平な調査をしてもらうしかない」という、ごく単純な動機で第三者委員会を頼ってしまうのではないのでしょうか。

学校側が嘘をついて逃げれば逃げるほど、せめて我が子の身に何があったのか知りたいという親としての思いはどんどん大きくなり、さらに学校を追いかけてしまう。

そんな悪循環が起きているように感じます。

次に、第三者調査委員会は正しく機能しているのだろうか？という問題については、残念ながら多くの事例から十分な機能が果たされているようには見受けられません。

その原因を推測する過程で、私の中には多くの疑問が生まれてきました。

例えば、委員会立ち上げまでの期間や委員会の開催日数、また人数や委員会の権限等、はっきりと決めないでスタートする事例が多くあります。探せば他にも様々あると思うのですが、何よりも私が一番疑問に思うことは、委員会メンバーのいじめに対する認識です。委員となった人々が本当にいじめ問題の専門家であるかどうかの検証はされているのでしょ

うか？スクールカウンセラーですらイジメに特化した勉強をした、いじめの専門家と言えるのかと考えると、大変疑問に感じます。現状のカウンセラーは、残念ながらいじめの事を十分知らずに学校に配属されているようです。そして、他にも委員となった元学校長や警察官、弁護士、PTA関係者はいじめの専門家と言えるのでしょうか？更に、職能団体からの推薦があればいじめの専門家が集まるかといえば、残念ながらそれもそうではなさそうです。

学校での初動調査も確立されない中、重大事態が起きたからといって突然集められた委員たちは、一体何を元に検証作業が出来るのでしょうか。

調査委員会が立ち上がるまでにもかなりの時間を要し、更にその時点からのアンケート調査や聞き取りで十分な調査が出来るとは思えません。

時間が経てば経つほど、又問題が重大であればあるほど人はその問題に関わりたくないという心理が生まれるようです。ましてや我が子が通っている学校での問題であれば、「いじめがない」と言っている学校への気遣いもあるでしょうし、わが子を守るためという理由で「この問題に関わらないでいよう」、という間違った形で、親が我が子を守ったつもりになってしまう可能性もあるのでは無いのでしょうか。

いじめ防止対策推進法 第二十八条

学校の設置者又はその設置する学校は、次に掲げる場合には、その事態（以下「重大事態」という）に対処し、及び当該重大事態と同種の事態の発生の防止に資するため、速やかに、当該学校の設置者又はその設置する学校の下に組織を設け、質問票の使用その他の適切な方法により当該重大事態に係る事実関係を明確にするための調査を行うものとする。

もしこの法律が正しく機能し、学校と被害者、そして重大事態の発生した現場に関わる全ての子どもと教師が、正面から事実に向き合うシステムが確立されたなら、第三者調査委員会立ち上げを望む被害者や遺族は激減するのではないのでしょうか？そして、再発防止に繋がるのではないのでしょうか。是非、この視点から7頁の記事を読んでみてください。

◆「ジェントルハートメッセージ in 青森の報告」

去る8月26日と27日の両日、青森にある総合社会教育センターに於いて、東北では初めてとなる「ジェントルハートメッセージ in 青森」を開催しました。

近年多くの悲惨な事例が報告されている東北の地において、いじめの問題について、考えてもらう機会を提供したいという思いで企画をし、葛西りまさんのご両親と大森七海さんのご両親の協力を得て青森の地での開催となりました。



両日とも晴天に恵まれ、ご両家にゆかりのある方や、いじめ問題に関心を持つ地元の方などが参加され、とても穏やかな気持ちで、ゆっくりと時間をかけてそれぞれの展示に見入っておられました。

今回のイベントでは遺族のミニスピーチコーナーを設け、遺族の心情や思いなどを皆さんに聞いていただく時間をとりました。

遺された家族からのメッセージでは、深い悲しみを乗り越えながらも、今でも伝わってくる変わらぬ家族の愛情が、さらなる聴衆の涙を誘っていました。



また、今回の企画から「いじめで傷ついたあなたへのメッセージ」と題した大人からのメッセージを書いてもらった色紙の展示も行いました。

これは9月1日問題として取り上げられている新学期明けにいじめ自殺者が激増するという問題に対し、子どもたちに少しでも思い止まれるる猶予をもってもらいたいという意図のもと、ジェントルハートプロジェクトにゆかりのある方々にご協力を頂き、展示をさせてもらうことが出来ました。



今回の遺族スピーチの中で、特に参加された方の心を動かしたのは、葛西りまちゃんへ宛てた家族からの手紙と、大森七海さんの幼い頃からの友人である晴菜さんからの手紙を紹介した部分でした。

それぞれのご家族と手紙を書いたご本人の承諾を得てこの紙面上で紹介させてもらえることになりました。

遺された家族、遺された友人がどうやってこの事実と向き合っているのかを感じて頂きたいと思っています。

【 家族から葛西りまちゃんへの手紙 】

りまへ

りまが旅に出てもう少しで1年になるね。
風邪とかひいてない？
お腹空いたらいつでも帰って来るんだよ？
お母さんも、りまがいつ帰ってきてもいいように毎日ご飯作って待ってるよ。
遊びたくなったらいつでも帰って来るんだよ？
お姉ちゃんも、りまと一緒にいるのが1番楽しいって、一緒に遊びたいって言ってるよ。
そしたら、りまの新しい洋服もあるからそれに着替えて、お父さんがどこでも好きな所に連れて行くからさ。皆んなでお出かけしようよ。
そして、いつもの笑顔見せて欲しいよ。
声も聞かせて欲しいよ。
お父さんもお母さんもお姉ちゃんも頑張っているのは、りまの想いがちゃんと伝わっているからだよ。
りまが残してくれた言葉、今度はこっちから言うよ。また会おうね。

りまの家族より

【 大森七海さんの友人、晴菜さんからの手紙 】

大森家のみなさまへ

七海がいなくなり3年になりました。
当時は何度も七海のことを思い出して自分が悪かったかもしれない、どうにかして助けられたのではないかと考え続けました。
無駄なことだとわかっているけど、その考えが頭を離れませんでした。そして、七海の死を受け入れることができず苦しくてたまりませんでした。私は七海のことを忘れてしまうのがとても怖かった。
死んで体がなくなった人は、もう新しく他人の記憶に残ることができません。
その人がたしかにこの世に存在していた真の証拠は、その人と出会った人々の記憶にあると思います。だから忘れることが怖かったのです。
忘れないように必死に七海との記憶を思い出し、そして猛烈に悔やみました。

過去を過去と認められず、新鮮な後悔をずっと抱いていました。しかしそれは間違いでした。

私や、大森家の家族、七海の友達が、七海のことを忘れるはずがないのです。

過去にこだわり、苦しみ続けるだけで前に進めないことに何の意味があるのでしょうか。

ようやくですが、七海の死を受け入れ過去の出来事として考えることにしました。

現在進行の後悔から、思い出に変えて、見つめることができるようにしよう、と思います。

それでも七海を思い出するとき、声もおいも顔の形もちゃんと思い出すことができます。

七海は今も私に影響を与え、励ましたり叱ったりしてくれます。

大森七海が私の友達で、この世に確かに存在していたという事を私は一生忘れません。

七海が懸命に生きて、死んでいったことを胸に刻み生きていこうと思っています。これからもよろしくお願いします。

最後に七海との思い出で印象深いものを書いておわりにします。

保育園年長か小学1年生のあたりの話です。
七海はひらがなで自分の名前を書くのが上手でした。一番感心したのは「な」の字です。

私にはどうしてもうまく書けませんでした。
七海の「な」を見ながら何度も練習しました。

七海はそばでそれを見ていて、もう一度お手本の「な」を丁寧に書いてくれました。なぜかいまでもはっきりと記憶に残っています。

ますます暑くなりますが、大森家の皆様もお体に気をつけてお過ごしください。

手紙を命日に届けるつもりが、文章を考えていたら日付が変わってしまいました。お許してください。



【展示会にご来場いただいた方々の感想】

◆50代男性

昨年新聞で見て驚いた。「とんでもない事件が起きたんだな」と思った。それからいじめの法律や過去のいじめについて調べた。

今までどれだけのいじめ自殺が闇に葬られてきたことだろう？ いじめで自殺したことは誰の目から見ても明らかなのに屁理屈をこねて何とかしていじめと自殺の因果関係を無かったことにしようとしている審議会にあきれた。

◆50代男性

メッセージ性が高くとても良い企画だった。

◆60代男性

このような機会は小中高でも開催して欲しい。また親の集う場も必要、話し合う場所をもっともっと設けてほしい。

◆50代女性

始めて来ました。写真の子達が優しくて、思いやりがある子ども達というのが伝わってきました。あらためてこんな事があってはならないという思いです。自分にも中三の娘がいます。もっと家庭で人との付き合い、いじめの事を話して、人を思い合える子になって欲しいと思います。学校でも積極的に講演をして、このことを知って欲しい。本人の思い、家族の思いをわかって欲しい。この活動が大きく取り上げられて、一人でも救われればと願っています。

◆60代男性

イジメに関する考え方が変わった。いじめる子どもをつくってしまった大人の責任であるから(関わろうとしない先生、大人も)、親、大人として早く解決出来るよう話し合いが必要であると強く感じました。被害者の親も苦しい思いを語っていただきありがとうございます。少しでも協力していきます。

◆40代男性

自分にも子どもがいるのでイジメについては色々考えることがあります。どうしたらイジメがなくなるのかわかりませんが、こういった講演会などで少しでもイジメがなくなるのなら自分も少しでも協力できたらと思います。

◆50代男性

こうしたイベントをもっと広げてもらって、この世の中から「いじめ」という言葉がなくなることを祈っています。

◆40代女性

お二人の話はとても深いものです。いじめ自殺が二度とおきない様、私たち大人の認識を変える必要があると思います。

◆20代男性

大人のしつけからいじめは起きていると思う。スピーチでもあったように、「やられたらやり返せ」が原因だと本当に思っ

た。

◆20代女性

道徳教育の中にジェントルハートさんの講演を導入して欲しいと思いました。学校がこのような講演をすることもいじめ防止の一步に繋がると思うので、是非青森県内の小中高で行ってほしいです。

可能であれば保護者会でも行ってほしいです。イジメについて無知な学生や先生に現状を知ってほしいです。

◆50代女性

思っていたよりもずっと多くの子どもたちの写真におどろきと悲しみを感じます。

「いじめ」学校事故はずっと以前から形を変えずにあったのだな?!とあらためて思います。

家庭、学校の問題だけではなく、地域、社会の問題として、現在子育て中の方だけではなく、より多くの方々の力を合わせて考えなければならないと思います。

少しでもその力の一部になりたい。

◆50代女性

すべての子どもたちが優しさに溢れている子ども達で……二度とこんな事がない様にしていきたいと思いました。

◆40代女性

いじめの無い世の中になるよう心から強く願います。

大人の私達が子どもを守っていかなければと改めて感じました。子ども達の顔がとても優しそうで可愛くて、なぜこのような事になってしまったのか……と、とても残念でなりません。いじている子ども達、早く気付いて欲しいです。

◆30代男性

正直で強くもなく、ただ懸命に生きている人には生きづらく、少々小ずるく器用に、大して強くもないのに強がって虚勢を張っているような人がのうのうと生きられる。

そういう矛盾がある世の中で、いじめる側といじめられる側が存在するという事実にただ空しさを感じる。人の心とは何なのか。どうすればこういういじめがなくなるのか。

もしかしたら絶対になくならないかもしれないが、考えられる大人でいたい。

◆30代男性

イベントを通じて、少しでもいじめの無い世の中になればと思った。



会場の全景

いなくなっているいい人いない

青森で いじめ根絶願 写真展

いじめ問題の解決に取り組む神奈川県NPO法人「ジェントルハートプロジェクト」は26日から2日間、青森市の県総合社会教育センターで、自ら命を絶った中高生ら18人の写真や遺族のメッセージを紹介する展示会を開いている。初日は、2014年にいじめを訴えて亡くなった八戸北高2年の大森七海さん(当時17)、16年に亡くなった青森市浪岡中2年の葛西りまさん(同13)の遺族が講話し、「いじめは犯罪」などといじめ防止を呼び掛けた。(佐藤正悟)

18人の遺族メッセージ

本県での展示会開催は初めて開いた。大森さんの母親(53)は「いじめは、たぐさんの夢と涙ながらに訴えた。葛西さんが亡くなってから

や希望を打ち砕き、何の罪もない子を死なせてしまうほどの威力を持った犯罪」と涙ながらに訴えた。



【写真上】時折声を詰まらせ、葛西りまさんに対する思いなどを語る父・剛さん(同下)大森七海さんや葛西りまさんの写真などに見入る来場者



ら25日で1年。父・剛さん(39)は「今でも毎日が後悔の連続」とする妻の手記を読み上げ、いじめで苦しむ子どもたちに向け「いなくなっているいい人はどこにもいない。生きていて、それだけで価値がある。自分に価値がないと言わないで」とメッセージを送った。一般市民ら約20人が話に聞き入った。

同NPO法人理事の小森美登里さんは「『やり返せ』ではなく、『自分がされてつらいことはほかの友達にしないように』と大人が子どもに教育できたいじめはなくなると思う」と来場者に呼び掛けた。

写真が展示されている18人は13〜20歳。27日の開場時間は午前10時〜午後5時。遺族による講話は午前11時、午後1時、同3時の3回行つ予定。入場無料。

2017年8月27日
朝日新聞 青森県版

子どもの自殺 苦しみ伝える

2017年8月27日
読売新聞 青森県版

手紙や言葉紹介 遺族スピーチも

いじめを苦に自殺した全国の子どもたちが家族に残した手紙などを紹介する展示会が26日、青森市荒川の県総合社会教育センターで始まった。川崎市のNPO法人「ジェントルハートプロジェクト」が県内では初めて開催した。



全国の18人が残した言葉などのパネルが展示されたほか、遺族によるスピーチも行われた。昨年8月、いじめ被害を訴える遺書を残し自殺した青森市立中学2年の葛西りまさん(当時13歳)の父・剛さん(39)「写真」は、「夢でもいいから会いたいという願いがかなっても目が覚めた時に喪失感や失望感を味わい、今では眠ることや夢を見るのも怖くなった。現実を受け入れ、展示と遺族のスピーチが行われる。

また、2014年に八戸沖で遺体で見つかり、遺族が「いじめが原因で自殺した」と訴えている県立八戸北高校2年生だった大森七海さん(当時17歳)の母親のスピーチも行われた。

27日も午前10時から午後5時まで同センターで開かれ、展示と遺族のスピーチが行われる。



自殺した子どもたちが家族に残した手紙などの展示に見入る来場者(26日、青森市内で)

このメッセージは8月に各地で開催した展示会場において、『いじめで苦しんでいるあなたへ』と題し、展示された色紙の一部です。
これ以外のメッセージも次号以降で紹介させていただく予定です。



世界にたった一つだけの
あなたの「命」。尾木ママは
大好きだよ。絶対になくさな
いでね。いつもそばにいるよ。一緒に
生きていたんだよ。だて勇氣出るぞ。
辛いよ。尾木ママにも分けてネ。
大丈夫！心に元氣出てくるよ

尾木ママ

2017.8.1



私ほ

あひたの苦しみを知らばい
悲しみの深さを知らばい
でも私ほ
あひたが死んだら悲しい

いじめ自殺した香澄の母

小森美登里



生まれてきてくれて

ありがとう！

あなたがそこに

いてくれて

ありがとう！

「ハッピーバースデー」作者

エドモト美奈

いじめの法律をつくら
国会議員からのメッセージ

いじめ防止対策推進法には、
「あなたは世界で一番大切な存在
です」と書いてあります。
生きて下さい。

法律ではいじめからあなたを救い出す
ことも学校の先生の義務にしています。
来時はいつでもお電話下さい。

03-6550-0915(直)

参議院議員

小西 洋元

入学以降 いじめ被害

川口の中3 学校当初認めず

川口市立中学校の3年男子生徒(14)が1年生のころからいじめを受け、不登校や自傷行為に追い込まれたと訴え、市教委が第三者委員会を設けて調べていることがわかった。学校や市教委は当初、いじめとみなしていなかったが、文部科学省や県教委の指導で方針を転じ、第三者委が近く報告書をまとめる見通しだ。

市教委 第三者委で審議

生徒の母親(49)や市教委への取材、学校側が保護者会で説明した文書などによると、生徒は入学後にサッカー部への入部直後から、メッセージをやりとりするSNSで「しね」と書かれたり、SNSのグループから外されたり、練習相手をしてもらえなくなったりした。昨年3月には部員に襟首を後ろからつかまれて倒されたほか、顧問教諭も生徒の頭をたたくなどしていたという。

生徒は昨年5月に約1週



「しね」「かす」などと書かれたSNSの画面＝川口市

間欠席し、同9月から今年3月末まで不登校になった。自傷行為もあったという。昨年10月には「いじめ、いやがらせによって心理的に不安定となり、強い不安、不眠、自傷行為などを生じている」との医師の診断を受けた。男子生徒は3年になった今年4月から登校しているが、その後も通学靴の裏に「しね」と油性ペンで書かれたという。母親は学校に相談したが改善されず、県教委や文科省に相談。生徒は「僕が全部書いて死んだら、みんなが校長や教頭にいじめだっって言ってくれるかな」などと話したという。

学校側は昨年9月以降、部の緊急保護者を繰り返し開いたが、生徒の母親を呼ばなかったり、発言させなかったりした。校長は朝日新聞の取材に「お話しで

きない」として応じていないが、今年5月と7月に開いた保護者会では「生徒が1年のころから嫌がらせを受けていたことを認識していたにもかかわらず、配慮に欠けていた」「母親から改善策を求められていたが十分対応できなかった」などと謝罪している。

市教委の大竹伸明指導課長は「学校の対応や調査が甘かったかもしれないが、放っておいたわけではない」と話す。部の顧問教諭は今春、他校に異動。市教委は今年2月に米津光治・文教大教授を委員長とする、同市で初のいじめに関する第三者委を設置し、8月までに11回、いじめにあたる行為を審議した。県教育局生徒指導課は「この問題はいじめの重大事態に相当する」とみて、市教委に指導を繰り返している。

(斎藤智子)

2017年8月31日
朝日新聞 埼玉県版

【川口市立中学の記事を見て】 理事 小森美登里

この少年は、中学入学直後に入部したサッカー部員の間でいじめが始まり、その内容は、言葉の暴力、ラインでのいじめ、その後一人だけラインから外されるなどです。その後、首を絞められるなど肉体的暴力に発展していたにもかかわらず、部活顧問からの適切な指導もなかったといえます。その結果彼は不登校になってしまいました。

また、警察はこの首締め事件で出された被害届に対して、十分な調査もありません。そして教育委員会に至っては、県や文部科学省からの指導が有りながら、これを「重大事態」と認める事を頑なに拒否し続けていました。

自傷行為をするまでに追い詰められた少年は、現在

生きてくれています。この問題は、今生きて精一杯頑張っているこの少年に対し、大人たちの虚偽や隠蔽によって事実を曲解させ、結果的に彼の命を危険にさらしていることになってしまっているのではないのでしょうか。

彼の心の傷は、いじめられたことだけでなく、大人の対応によって更に深まりました。

彼の受けた傷に対して、隠蔽や虚偽を続けていた大人たちはどうやって言い逃れをするつもりなのでしょうか。この大人たちは、いじめが「命に関わる重大事態」であることを未だに理解することが出来ないのでしょうか。子どもの命は大人によって守られなければならないものです。

子どもの命を守る責任が、今一人一人の大人にあることを、痛感してもらいたいです。

◆ 活動のご報告と今後の予定 ◆

日付	主催者	都道府県	都市	人数
2017/9/2	藤嶺学園藤沢中学校3年生	神奈川	藤沢	110
2017/9/20	野田市立関宿中学校	千葉	野田	70
2017/9/22	川崎市立金程中学校	神奈川	川崎	450
2017/9/26	所沢市立三ヶ島中学校	埼玉	所沢	100
2017/9/27	豊昭学園・豊島学園・昭和鉄道高等学校	東京	豊島	740
2017/10/2	神奈川弁護士会司法修習生実務修習	神奈川	横浜	12
2017/10/11	大阪府学校保健会養護教諭部会合同研修会	大阪	大阪	500
2017/10/13	柳井市立柳井中学校	山口	柳井	650
2017/10/13	鹿沼市PTA連絡協議会指導者研修会	栃木	鹿沼	200
2017/10/16	赤磐市立赤城中学校	岡山	赤磐	120
2017/10/17	備前市立備前中学校	岡山	備前	320
2017/10/20	名古屋市教育委員会人権問題講座	愛知	名古屋	65
2017/10/25	磯子区人権啓発研修	神奈川	横浜	50
2017/10/26	横浜市教育委員会事務局 人権啓発研修	神奈川	横浜	300
2017/10/28	千葉県子どもと親のサポートセンター	千葉	千葉	150
2017/11/1	玉野市立後閑小学校	岡山	玉野	70
2017/11/9	山陽小野田市立高千帆中学校	岡山	山陽小野田	550
2017/11/9	芳賀地区中学校教育研究会	栃木	真岡	50
2017/11/16	峡東地域教育推進連絡協議会	山梨	甲州	150
2017/11/20	柏市立中原中学校	千葉	柏	530
2017/11/21	横浜市立日吉台中学校	神奈川	横浜	1,120
2017/11/22	光市学校人権教育研究発表会	山口	光	220
2017/11/30	柏市立手賀中学校	千葉	柏	110
2017/11/30	柏市立柏高等学校	千葉	柏	1,050
2017/12/1	佐倉市立臼井南中学校	千葉	佐倉	390
2017/12/3	南伊勢市保護司会教育講演会	三重	度会郡	100
2017/12/4	柏市立柏第二中学校	千葉	柏	600
2017/12/4	玉野市立田井小学校	岡山	玉野	180
2017/12/5	新見市立新見第一中学校	岡山	新見	410
2017/12/6	新見市立新見南中学校	岡山	新見	250
2017/12/8	三条市立第四中学校	新潟	三条	300
2017/12/10	かながわハートフルフェスタ2017	神奈川	座間	280
2018/1/17	笛田市立境川小学校	山梨	笛田	230
2018/1/23	松山市人権同和問題学習講座	愛媛	松山	100
2018/2/20	練馬区立豊溪小学校	東京	練馬	230
2018/2/23	横浜市立南が丘中学校	神奈川	横浜	250
2018/3/15	流通経済大学付属柏高等学校	千葉	柏	850
2018/4/18	藤嶺学園藤沢中学校一年生	神奈川	藤沢	110
2018/4/19	宇都宮文星女子高等学校	栃木	宇都宮	
2018/4/21	藤嶺学園藤沢中学校2年生	神奈川	藤沢	90
2018/8/1	熊本県市立中高等学校教職員研修	熊本	熊本	1,200